

道徳の教科化の趣旨を生かした

導入・展開・終末・発展の類に関する研究②

新宮 弘識



Ⅱ. 展開前段について(前号「Ⅰ. 導入について」を受けて)

(1) 展開前段の類と具体的な事例

展開前段の類-発問	具体的な事例
a, 望ましくない行為は何かを明らかにさせる問	・次の話を読んで、そんなことをするのはよくないと、注意してやる人はいませんか ・次の話を読みましょう。よくないと思う行いはどんな行いですか
b, 望ましくない行為を生む心は何かを考えさせる問	・どうして、そのようなよくない行いをしたと思いますか ・次の話の私が、気持ちのよい生活ができなかったわけは何でしょうか ・正さんは、どうして割りこみをしてしまったのでしょうか
c, 望ましくない行為や心の結果を考えさせる問	・うそをつくると、どうなると思いますか ・きまりを守らないと、どんなことが起きると思いますか ・仕事を怠けると、どんなことが起きると思いますか
d, よい行為は何かを明らかにさせる問	・次の話を読んで、いいことをしたなあと思う人はいませんか ・この話には、きまりを守っている人はいませんか
e, よい行為を生む心は何かを考えさせる問	・この話に出てくる私は、なぜがんばることができたと思いますか ・かには、どんなことを考えて魚を助けたと思いますか ・「お互い様」という言葉には、どのような心がこめられていると思いますか ・あやのどんな心が、花を咲かせたと思いますか ・野中到が目標を達成できた秘訣は何だと思いますか
f, よい行為や心の結果を考えさせる問	・きまりを守ると、どんなよいことがあると思いますか ・譲り合った二人は、どんなよい関係になると思いますか ・思いやりの心をもって親切にした結果、相手の人はどんなことを考えると思いますか ・礼儀正しい生活をする、人と人との関係はどうなっていくと思いますか
g, 望ましくない心で行動した人の気持ちを考えさせる問	・うそをつくると、どんな気持ちになると思いますか ・自分の間違いに気づいた私は、どんな気持ちになっていると思いますか ・割りこみをして注意された人は、どんな気持ちになったと思いますか
h, よい心で行動した人の気持ちを考えさせる問	・人を助けると、どんな気持ちになると思いますか ・次の話の私は、目標を成し遂げたとき、どんな気持ちになったと思いますか ・〇〇さんは、相手が喜んでのを見てどんな気持ちになったと思いますか
i, よい行為のあり方を考えさせる問	・ひとりぼっちの人に、何をあげられますか ・無駄遣いにならないお金の使い方には、どんな使い方があると思いますか ・この話の中の私は、どうすればよかったと思いますか ・この後、〇〇さんはどんな考えでどうしたらよいと思いますか
j, 教材を読んだ感想を求め問	・この話を読んでどんな感想をもちましたか ・お年寄りのどんなところがすごかったですか ・みなさんは、スイミー作戦をどう思いますか
k, その他	

(2) 展開前段に関する考察

1. 展開前段の特質としての、教材を媒介にした学び合いについて

展開前段は、一般的には教材(従来は資料と言っていたが、教科化によって教材とする)を中心にした学習であるが、この学習は教材に登場する人物の生き方に学ぶ、教材を読んだ友達の考えに学ぶ、教材を読んだ教師の考えに学ぶという学び合いであるといつてよい。

教材を媒介にして学ぶといつても、子どもの学びは多様である。自分と異なる友達の学びを聞き、自分の考えを広げたり深めたりするという学び合いもあるし、自分と同様な考えを聞いて納得したり、自信を抱いたりするという学び合いもある。また、教師からの学びも重要である。教師が教材を読んだ学びを語ることは、教師が道徳的価値を一方的に押しつけるものとしてタブー視する傾向があるが、子どもたちだけの話し合いは、はいずり回って深まらないという問題がある。そのとき教師が「このような考えもあるよ」と子どもと違う考えを提供することは大切なことである。このことを私は「子どもに問いかける」と呼んでいるが、それは子どもたちの学びに、新しい情報を提供してやることであり、それは道徳的価値の一方的な押しつけではなからう。

2. 気持ちを問う情の学習について

調査結果の「g, 望ましくない心で行動した人の気持ちを考えさせる問」「h, よい心で行動した人の気持ちを考えさせる問」がこれに相当する。調査結果によれば、この学習は他の類に比べて比較的少ないが、一般的な道徳授業ではきわめて多い間だと思われる。人間は理では動かず情で動くことを考えると、情の教育は重要である。しかし、一般的に行われている登場人物の気持ちを問う学習は、ここでいう情としての道徳的心情とは異なるように思われる。「気持ち」とは、「快・不快・好き・嫌い等であり、それは、ちょっとした刺激で変わりやすい」(新明解国語辞典)のであるが、この発問はこのような「気持ち」に止まる恐れがある。道徳教育における情は、このような単なる気持ちであってはならない。それは、道徳的心情でなければならぬ。道徳的心情とは、道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のことである。したがって気持ち

ちを問う学習は、道徳的価値の理解という理の学習が前提になっていなければならないが、一般的には、単なる気持ちを問う学習が多いように思われる。新『学習指導要領』改正の方向として、「感じる道徳授業から考える道徳授業へ」と一部報道機関に報じられている。極論で誤解を生じかねないが、その意図する方向は、気持ちだけを問う道徳授業への警鐘であろう。

3. 行為を生む心は、「何故か」と問う理の学習について

調査結果の「b, 望ましくない行為を生む心は何かを考えさせる問」「e, よい行為を生む心は何かを考えさせる問」がこれに相当する。この間の重要性については、我々が長い間主張してきたことであるが、一般的には「何故かと問う学習はよくない」と、これもタブー視されてきたように思われる。この間は表面的な行為を通して、その行為を生む内面的な心を関係的構造的に考えさせようとする問である。同じ行為でも、心のありようによっては善にもなり悪にもなることは自明の理である。偽善のために礼儀正しくすることがあり、悪事を働くために努力したり協力したりするという例を考えれば納得できる。内なるものとしての心と外なるものとしての行為とを関係的に捉えなければ、善悪の判断はできないのである。

この学習は、「行為を生む心は、何故かと問う理の学習」であるが、何故かと問うには、それ以前に「a, 望ましくない行為は何かを明らかにさせる問」「d, よい行為は何かを明らかにさせる問」を発して学習しておくことが必要である。また何故かを問うた学習の後に「c, 望ましくない行為や心の結果を考えさせる問」「f, よい行為や心の結果を考えさせる問」が必要なことはいうまでもない。このようにして、理の学習が行われ人間のよさが関係的構造的にわかってくると、そのわかりの広がりや深まりに即応して、情も深まっていくのである。そうなれば、人間を突き動かす情が理に裏付けられて確かなものになっていくのである。ここで特に気をつけなければならないことがある。一部の報道による「感じる道徳授業から考える道徳授業へ」という報道は極論で誤解を招きかねないとしたが、情の教育を否定してはならない。「理を究め情に居る」ことが大切である。この意味で私はコクのある芳醇な道徳の授業、つま

り理によって内容的に深まり、情によって香りの高い道徳の授業こそ望ましいと考えている。

『学習指導要領』の総則に「議論する道徳」という文言がみえる。誤解を招く文言ではないか。この文言は「議論のための議論」ではなく、「実際の行動を前提にした考える道徳」でなければならない。考えることによって情が深まる学習でなければならない。道徳にディベートはなじまないのではないか。

4. 望ましくない行為やその行為を生んだ心を問う学習について

調査結果の「a, 望ましくない行為は何かを明らかにさせる問」「b, 望ましくない行為を生む心は何かを考えさせる問」「c, 望ましくない行為や心の結果を考えさせる問」がこれに相当する。

調査結果によるこの問の活用度は比較的少ないが、まだまだ一般的には多いように思われる。学級内の諸問題を解決したい、よい学級に育て上げたいとする教師の願いが、この底辺にあるように思われる。したがって、教材も望ましくない行為や心を扱う教材を投入して反省を促すものが多くなる。そうなれば道徳の授業が暗くなる。道徳の授業の教育的意義は、学級内の諸問題の解決のためにあるのだろうか。人間のよさを学び、そのよさに向かって自分を高めていこうとする心と力を育てることが道徳授業の本質ではないか。そのような本質に立つ学習の結果、それが学級内の諸問題の解決の「もと」になるという考え方が大切であろう。

5. 人間のよさとしての行為やその行為を生む心を問う学習について

調査結果の「d, よい行為は何かを明らかにさせる問」「e, よい行為を生む心は何かを考えさせる問」「f, よい行為や心の結果を考えさせる問」がこれに相当する。この問の調査結果は、望ましくない行為や心を問う問に比べて比較的が多い。

Ⅲ. 展開後段について

(1) 展開後段の類と具体的な事例

展開後段の類	具体的な事例
a, 学習内容に類似した自分の経験を想起させて道徳的価値は自分も持っていることを自覚させる活動	・美しいと思ったことを思い出しましょう。みなさんも「美しいものはいいなあ」と思うすばらしい心をもっていますか ・この話のようにみなさんも、がんばっていろいろなことができるようになったことがあるでしょう。みなさんもがんばる心をもってはいませんか

国語や算数等の教育は、100点満点を期待するのであるが、道徳教育は100点満点の子どもを期待するのであろうか。100点満点の聖人はどこにもいない。人間は様々な欲望と人間のよさの間で揺れ動いているのであるが、何とか人間のよさに向かって自分を高めていきたいと思っている者は魅力的である。不完全でありながらも、自分を高めたいと求めて生きる人間を育てることこそ、道徳教育の目的ではないか。

このように考えると、望ましくない自分を反省させ改めさせる教育よりも、人間のよさを理解し、そのよさに感動し、そういうよさをもっていることを自覚して、人間のよさを高めていこうとする教育が大切ではないかと考えられる。

囲碁の教育に情熱を捧げていた藤沢秀行九段は、子どもの問題点よりも、よいところを伸ばすことが大切であるという。また、宝石の修行をする者には、本物の宝石しか扱わせないという。孟母三遷の教えもよい環境の大切さを語ってくれる。

発達段階にもよるが、小学校では努めてよいものに触れさせて心を豊かにする教育が大切ではないか。自分を反省しそれを改めさせる教育は、人間の醜さを考えてそれを克服できる能力が育つのを待って行う必要があろう。それは、高学年から少しずつ始めるのがよい。

6. 教材を読んだ感想を問う学習について

調査結果の「j, 教材を読んだ感想を求める問」がこれに相当する。この学習は、子どもの学習意欲を大切にしようとする意図で設定されたのであろうが、道徳以外の反応もあり、漠然とした問であり、漠然とした反応である。

したがって、その感想の中から道徳的な内容にどのようにつまんで学習するかに相当の時間と教師力が求められる。導入の段階で、問題意識を高めていけば、この学習はなくてもよいと思われる。

	・学んだことと自分とを比べてみましょう。似ているところや違うところはどんなところですか ・この話のように、家族が支え合ったことはありませんか。みなさんも支え合う心をもっていますよ
b, 親の手紙を読んだり、教師から話を聞いたりして、自分たちも道徳的価値をもっていることを自覚させる活動	・「みなさんも困った人がいたら助けようとする心をもっているよ」という話をお母さんや先生から聞きましょう ・みなさんのお母さんから一人ひとりに手紙が来ています。配りますから読みましょう ・みなさんも学校を愛する心をもっていると思います。そのことを校長先生が話していただきますから聞きましょう
c, 学習内容に類似した心をもって行動した人を発表させて、道徳的価値は身近な人も持っていることを自覚させる活動	・この話のように、優しい心をもっている人はみなさんの周りにいませんか ・この話のように、私たちの周りには、一生懸命働いている人はいませんか ・この話のように、社会を支えている人々は他にいないか、話し合みましょう ・毎朝、交通整理をしてくださっている人が今日来ています。どんな気持ちで交通整理をしてくださっているか、話を聞きましょう
d, その他	

(2) 展開後段に関する考察

1. 展開後段の教育的意義について

平成27年度に改正された学習指導要領道徳解説では、「道徳的価値の理解を自分との関わりで深めたり、自分自身の体験やそれに伴う考え方や感じ方などを確かに想起したりすることができるようにする」という文言がみられる。この文言を生かせば、展開前段の教材を通し学習した道徳的価値を子どもの生活と重ねて考えさせ、道徳的価値は自分も持っていることを自覚させる活動が重要になる。ここで重ねさせるのは道徳的価値であるが、それは、時・場・相手の違いによって変わる行為ではなく、その行為を生む心でなければならない。例えば、「どんなことがあっても目的を成し遂げようとする強い心」「困っている人をだまってみて見られない心」「美しいものにふれて美しいとする心」等の行為を生む心である。

2. 学習した道徳的価値は自分も持っていることを自覚させる学習について

調査結果の「a, 学習内容に類似した自分の経験を想起させて道徳的価値は自分も持っていることを自覚させる活動」がこれに相当する。この調査によると、この活動を設定している指導案は、きわめて少ない。何故であろう。

第一に、この活動は展開前段の内容に比べてトーンダウンしやすいという問題点があり、導入で想起された経験と同程度の反応も多く、これでは

教材を通して学び合った意味がないという理由が考えられる。

また、道徳の授業における教材の読みは、言葉を通した国語的な読みではなく、自分の経験を通した読みであることを考えれば、「教材を語ることは、自分を語ることである」ということができる。したがって、第二の理由として、学習内容に類似した自分の経験を想起させる学習を改めて設定するまでもないといえるわけである。

しかし、展開前段の学習では、学習した道徳的価値を他人事として捉えている子どももいると考えられるから、道徳的価値の自覚を図る学習は必要である。そこで調査結果の「b, 親の手紙を読んだり、教師から話を聞いたりして、自分たちも道徳的価値をもっていることを自覚させる活動」によって、質的な深まりをもった学習を設定することが重要になる。また、道徳の授業後に、学習内容を意識的に体験させることによって、道徳的自覚を促すことも考えられる。このことについては、次回の終末や発展の項で詳述する。

3. 学習した道徳的価値は、自分の身近な人も持っていることを認識させる学習について

調査結果の「c, 学習内容に類似した心をもって行動した人を発表させて、道徳的価値は身近な人も持っていることを自覚させる活動」がこれに相当する。この学習は、展開後段で行うか、終末や発展で行うか、柔軟に考える必要があろう。